

中国において地域包括ケアシステムを導入する体制について

A Research on Systems when the Community-based Integrated Care System of Japan is Introduced into China

巩 愛華 (Aihua Gong) 指導：植村 尚史

【研究背景・目的】

日本でも中国でも、高齢化が進み、疾病構造が変化する中で、慢性疾患を持っている高齢者が急増している。このような高齢者は、医療だけでなく日常生活に介護や支援が必要な場合が多く、住み慣れた地域で暮らし続けて行くためには、必要な医療や介護のサービスが一体的に提供できる体制を整備することが求められる。

このような事情から、日本では地域包括ケアシステムの構築が大きな課題となっている。中国でも、介護保険の導入が進められようとしているが、介護サービスの普及に加えて、医療と介護を包括するケアシステムの構築が、介護保険のおおきな課題とされている。しかし、医療、介護、さらにはその他の生活支援は、それぞれ別々の制度、体制で提供されており、個々の高齢者の生活を支えるように、包括的にサービス提供する体制をつくることは容易ではない。また、地域の事情やサービス提供体制の整備状況、住民の生活状況などによって、そのあり方は様々である。厚生労働省は、地域包括ケアシステムの構築について、「地域の自主性と主体性」に基づき、特性に応じたシステムを構築していくということをいうのみで、全国的に適用できるような具体的な方法は示していない。

そういう中で、各地域では、現実の必要性から、その地域にあった方法で地域包括ケアシステムを構築する動きがあり、その中には、他の地域でも応用できる「モデル」となる取り組みも見受けられる。

【研究方法】

本研究では、地域中核病院を中心に医療と介護の包括的なサービスを提供する事業体をつくり、包括ケアシステムを築きあげていくという「事業統合型モデル」というべき取り組みに着目し、その成功事例とされる恵寿総合病院を中心とした「けいじゅヘルスケアシステム」を調査した。

中国では、非営利団体の社区病院を地域の中核病院として機能させようという政策が採られている。社区病院が地域中核病院としての機能を果たすことができれば、介護保険が導入され、公的な色彩の強い介護サービスが提供されるようになり、社区病院を中心に介護サービス提供体制を

整えることが可能となる。そうなれば、日本の「事業統合型モデル」のようなかたちで包括ケアシステムが構築できるのではないかという期待がある。

本研究では、「けいじゅヘルスケアシステム」の調査結果に基づき、同様のモデルが中国でも適用できるか、その場合の条件は何か、について検討した。

【分析】

「けいじゅヘルスケアシステム」の成功要因を、①地域特性、②病院と地域住民の結びつき、③患者・利用者の情報を関係者間で共有する情報ネットワークのあり方、④情報ネットワークと地域住民、事業従事者とをつなぐインターフェイス、⑤段階的な事業拡大の方向、という5つの観点から分析した。同じように、それぞれの観点から、中国の状況を分析し、社区病院を中心にして同じような「事業統合型」の包括ケアシステムを構築することの可能性と条件を導き出した。

【結論】

実現可能な地域の条件があり、社区病院によってはその機能や施設に変更を加えることが必要となるところがあるものの、社区病院を中心にした「事業統合型モデル」による地域包括ケアシステムの構築は十分に可能であるとの結論に達した。社区病院は、本来は、「社区衛生サービスセンター」の一機能であり、「社区衛生サービスセンター」としての機能を果たしていくことが、地域包括ケアシステムを構築していくことになるといってもよい。ただし、中国にはまだ介護保険がなく、その内容も確定的ではない段階である。保険給付が充分でなければ、介護サービスを利用できない高齢者が多くでることになり、事業展開も困難になる。また、社区病院のなかには本来の役割が果たせていないところも多く、住民からの信頼も得られていない状況がある。今後、社区外の大病院との連携などの方法により、医療技術や設備の充実を図って、地域中核病院としての実態を備えるようになることが求められる。地域包括ケアシステムの構築は、そのような前提がクリアされることが前提となる。